

## [23\_04]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470147>

---

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 23 (4), 1990-07-25. 九州大学大型計算機センター  
バージョン：  
権利関係：

# Q&A

このページには、センター利用に関する質問（Q）とそれに対する回答（A）を掲載しています。

このページはユーザのみなさんからの質問によって成り立っています。広報巻末の質問票を利用して質問をお寄せ下さい。

Q 現在、NVTにより東京大学大型計算機センターを利用しています。東大センターのTSSで実行した結果を教養部端末分室のOPRに出力する方法を教えてください。

A このような場合に限らず、OPRにリスト出力するには、出力したい情報を一旦本センターのデータセットに作成する必要があります。データセットに作成できれば、次のコマンドで出力できます。

DSPRINT    データセット名    OPR機番    NONUM

さて、相手センターで実行した結果を本センターのデータセットに作成する方法として次の3つが考えられます。これらの方法は組み合わせて利用できますので、データ量などを考えて使い分けるとよいでしょう。

- (1) 端末に表示された情報をデータセットに入れるLOG機能を用いる。  
操作は簡単。情報すべてを端末に表示する必要があるので、情報量が多い場合には不向き。
- (2) NVT（またはFNVT）のファイル転送機能を用いる。  
操作はやや複雑。端末への表示・非表示が選択できる（@IMPORTコマンドのLIST, NOLISTオペランド）のでデータ量が多い場合にも利用可。転送能力はFNVTの方が優れている。
- (3) 実行結果をTSSジョブとして出力しておき、RJEのジョブ出力機能を用いて取り出す。  
操作は複雑。データの出力と転送を別ステップで行うので、相手センターとの接続時間が短縮できる。データ量が多い場合に向いている。

FORTRANプログラム PROG.FORT を実行した結果を本センターのデータセット TSS.LIST に入れることを例として、それぞれの方法を説明する。(1)については文献[1]、(2)(3)については文献[2]、プログラムの実行については文献[3]を参照ください。

## (1)の使用方法

```

READY
ALLOC F(SYSTSLOG) DA(TSS.LIST) NE CA T SP(5 5) REU
    . . . LOGの出力データセットを割り当てる

READY
LOG ASIS          . . . LOG機能の開始
*** TSS LOGGING STARTED TIME:時.分.秒 DATE:月/日/年 ***

READY
FNVT TOKYO       . . . FNVT（またはNVT）コマンドで東大センターを呼び出す
LOGON tokyo-uid/tokyo-password . . . 東大センターにLOGONする
>> USE PROG.FORT . . . ソースデータセット名を記憶する
>> CGO            . . . プログラムを実行する
.
.
.
コンパイル情報、実行結果などが表示される
>> LOGOFF        . . . 東大センターからのLOGOFF
  
```

READY

LOG E . . . LOG機能の終了

\*\*\* TSS LOGGING ENDED TIME:時.分.秒 DATE:月/日/年 \*\*\*

## (2)の使用方法

>> USE PROG.FORT . . . ソースデータセット名を記憶する>> @X ATTR DCB RECFM(V B) LRECL(137) BLKSIZE(141) . . . 転送先のデータセット@X ALLOC DA(TSS.LIST) NE CA T SP(5 5) US(DCB) を割り当てる@IMPORT TSS.LIST NOLIST . . . 転送先のデータセットを指定するCGO . . . プログラムを実行する (@IMPORTコマンドでNOLISTを指定しているので  
実行結果は端末には表示されない)

KCQ10114I FILE TRANSFER STARTED

KCQ10115I FILE TRANSFER ENDED

enter-key . . . 空行を入力する

## (3)の使用方法

>> USE PROG.FORT . . . ソースデータセット名を記憶する>> DEST FT06F001, KYUSHU, ABS . . . 論理機番6の出力先をDEST名KYUSHUに割り当てる>> CGO . . . プログラムを実行する (出力先がKYUSHUに割り当てられ  
ているので実行結果は端末には表示されない)>> LOGOFF . . . 東大センターをLOGOFFする

READY

NETRJE . . . N I R J Eを起動する

HOST

HOST TOKYO . . . 接続するホストを指定する

KEC1018I RJE LINK OPENED TO HOST : TOKYO

N1RJE

USER tokyo-uid tokyo-password . . . 東大の利用者番号とパスワードを入力

N1RJE

OUTPUT PRINT(DS(TSS.LIST)) . . . O U T P U Tコマンドでデータセットに取り出す

KEC1022I A79999A.TSS.LIST DATASET OPENED

KEC1003I JOB job-name OUTPUT COMPLETED

KEC1190I A79999A.TSS.LIST DATASET CLOSED

N1RJE

BYE . . . 東大センターとの接続を終了する

KEC1019I RJE LINK CLOSED TO HOST : TOKYO

HOST

END . . . N I R J Eを終了する

READY

CHGCODE TSS.LIST TSS.LIST HTOF . . . コード変換を行う

CONVERT COMPLETED

## 参考文献

1. 利用の手引 センターコマンド編, 九州大学大型計算機センター
2. 利用の手引 ネットワーク編 (第2版), 九州大学大型計算機センター
3. V O S 3 システム コマンドマニュアル 第4版, 東京大学大型計算機センター